

令和 2 年度

わくわく事業補助金

活動事例集

目 次

地域 自治区	地域名	団体名	事業名	頁
旭	旭地域	あさひ根っ子の会	林育推進事業	1
足助	足助地域	御内森づくり会議	地域資源を活かし子供の可能性を広げる事業	2
稲武	稲武地域	いなぶ健康アカデミー	すくすく生き生き健康教室	3
小原	小原地域	小原宴火	手筒花火の製作と実演	4
上郷	上郷地域	上和会 花くらぶ	上和会上屋敷交差点環境美化事業	5
	末野原地域	竹の会	地域竹やぶの環境整備	6
拳母	逢妻地域	逢妻女川を考える会	逢妻女川の環境ふれあい事業	7
	朝日丘地域	三軒屋子ども交流教室	子どもプログラミング教室	8
	梅坪台地域	梅坪小区の歴史と文化を伝える会	梅坪台地区の歴史と文化を伝える事業	9
	浄水地域	浄水町まちづくり協議会	浄水まちづくり事業（シラタマランド整備事業）	10
	崇化館地域	ぬくもり♡ねっと	子どもの居場所づくり（子ども食堂）事業	11
	豊南地域	水源公園を愛する会	矢作川沿いお休み場の景観づくり	12
猿投	井郷地域	井郷地区自主防災会	井郷地区の防災・減災意識向上啓発活動	13
	石野地域	東広瀬地区名鉄三河線廃線敷愛護会	東広瀬地区名鉄三河線廃線敷整備事業	14
	猿投地域	猿投町まちづくり協議会	ふれあい広場登山道（仮称）の整備事業	15
	猿投台地域	青木台たすけあいの会	高齢者、障害者の方への「困りごと」お手伝い事業	16
	保見地域	保見の歴史を伝える会	保見地域の歴史を伝える事業	17
下山	下山地域	三河湖 SS 広報部	三河湖 SS プロモーションビデオ作製	18
高岡	前林地域	駒新お助け隊 2027	困り事のお助け・緊急時の支援活動	19
	竜神地域	竹中脳げんき会	地域高齢者の心身の健康維持事業	20
	若園地域	中根風土記編集委員会	「中根風土記（仮称）」の編纂	21
	若林地域	高美町桜並木保存会	高美町桜並木の景観整備事業	22

地域 自治区	地域名	団体名	事業名	頁
高橋	高橋地域	岩本川創遊会	親子が創る遊ぶ育むふるさとの川	23
	益富地域	五ヶ丘東ちょこっとお助け隊	高齢者・障がい者児等が安心して暮らせるまちづくり推進事業（地域のお助け隊）	24
	美里地域	美里1丁目お助け隊	美里1丁目高齢者を支える事業	25
藤岡	藤岡地域	木瀬四季の里山づくり実行委員会	木瀬地区の里山づくり事業	26
	藤岡南地域	西中山自治区住みよい地域創造活動協議会	西中山山川環境浄化・景観緑化整備・マレットゴルフ場整備事業	27
松平	松平地域	水土里の会	里山林再生整備事業	28

【旭地域】わくわく事業活動事例紹介

団体名	あさひ根っ子の会
事業名	林育推進事業
会員数	5名
設立年月日	平成28年4月20日
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> 旭地区にあるこども園、小学校、中学校の子ども達を対象に、年間の保育・授業計画の中で体験学習を盛り込んだ林育活動の機会を提供します。 森林所有者、林業にかかわる人たちや地域住民に、森林再生と森林資源活用の必要性を啓発する活動を行います。
活動状況	活動内容・成果、活動の中で良かったこと、苦労したことなど

【活動内容】

- ・子ども園園児には、山や川での遊びを、小学生には森の健康診断や竹を活用した活動を、中学生には間伐体験などの校外学習を中心とした林育活動を行いました。
- ・森林再生と森林資源活用の必要性を啓発するポスター等の募集を行いました。

【活動の成果】

- ・新型コロナ禍のため、こども園・学校と協議のうえ、小学校2校で9回、下記の内容による校外学習を行いました。
 - ①森の健康診断と間伐体験（学区内にある山林）。
 - ②旭地区内の製材工場で木材加工の見学。
 - ③豊田森林組合で森林資源についての話。

【活動の中で良かったこと・苦労したこと】

- ・熱中症対策、クマ出没、特に今年は新型コロナ禍により、校外学習の一部自粛や延期、更には中止を余儀なくされたことが残念です。そうした中で、緊急事態宣言解除後の10月から12月に校外学習の緊急な依頼がありましたが、臨機応変に対応できました。また、先生方と協力して、安心・安全に配慮した校外学習が実施できました。
- ・交通事情が不便なため、校外学習にはレンタカーなどの利用が必要となり、日程の調整などに苦労しました。

【今後の展望】

- ・活動当初から、小渡小学校では5, 6年生、敷島小学校では6年生を対象に森の健康診断を「森健出前隊」の協力のもと、授業の一環として実施しました。強い要望があり、来年度以降も継続するつもりです。
- ・旭地区の山や川での活動ばかりでなく、農業や観光などの産業にも、校外学習として活用してもらえるように働きかけたい。

【団体からの一言】

- ・将来、この地域から離れたとしても、この原体験としての記憶が、ふとしたきっかけで役に立てばと願います。



製材工場見学(2年10月)



豊田森林組合にて(2年11月)



間伐体験(2年12月)

【足助地域】 わくわく事業活動事例紹介

団体名	御内森づくり会議
事業名	地域資源を活かし子供の可能性を広げる事業
会員数	5名
設立年月日	平成19年4月1日
事業概要	<p>①子どもたちが自然の中で様々な体験を通し、多様性に触れ、自己の認識や可能性を広げる機会を提供する。</p> <p>②地域住民をとともに活動することにより、地域の文化や伝統、山の暮らしを次世代へ伝える。</p> <p>③山間部への移住を希望する家族が地元住民と交流を図れる機会を創出する。</p>
活動状況	活動内容・成果、活動の中で良かったこと、苦労したことなど



今年度は試行的な一年だと捉えて活動をした。

フィールドを全面覆うスズタケの除去、枯マツや枯ナラの伐採と搬出等の森林整備を中心に行い、ご協力いただける方と共に一般募集でのイベントを複数開催した。また、林内整備の合間で小さな子供がいる家族が遊びに来ており、みんな一緒になって木登りや川遊び、基地作りからモニュメント作り等を行っていた。植物や生物の観察も行った。

【成果】

イベントとして、平勝寺 佐藤一道住職による森の坐禅会、ファシリテーター講師による多様性に関するワークには市内外から小中学生とその家族の参加者があり、次回開催の要望も強い内容となった。年齢、性別、生活環境等に関わらず、全員がフラットな存在として多様性を知り、その中に自己を見つける時間であった。また、地元との連携も図り、林内の整備からイベントへの参加、マレットゴルフコースの計画など今後へつなげる動きを作れた。

【活動の中で良かったこと】

フィールドを訪れた子供たちが解放された心持になる変化が見られた。林内にあるものから遊びを創出し、大型動物の痕跡からその姿を想像し、樹木や昆虫やカエルなどが送る普段の生活の中に自分がある感覚で過ごすことができる環境であることを実感できた。

【PRしたいこと】

行為による成果がすぐに見え、明確な答えがある活動ではない（元々そこを目指してはいない）ですが、一つ一つ積み重ねることにより体の芯に残る内容を心がけています。



【稲武地域】 わくわく事業活動事例紹介

団体名	いなぶ健康アカデミー
事業名	すくすく生き生き健康教室
会員数	5名
設立年月日	平成31年4月1日
事業概要	超高齢化問題を抱える愛知県豊田市稲武及び近隣住民の『健康寿命を延ばす』『健康なまちづくり』を目的に活動する医療専門職のボランティア団体（プロボノ）。理学療法士、言語聴覚士、感染管理認定看護師をメンバーにそれぞれの知識と経験を社会に活かす活動を行う。
活動状況	活動内容・成果、活動の中で良かったこと、苦労したことなど

【活動内容】

- ① 健康教室、講座、講演(健康教室、新型コロナウイルス感染予防オンライン・オフライン講座、大学講演)
- ② 健康啓発媒体の作成、発行、監修(新型コロナウイルス感染症予防の手引き作成発行、大日本図書「新型コロナウイルス 感染症予防ポスター」監修、会報誌・特別会報誌作成発行)
- ③ 健康情報配信(HP、YouTube、FM ラジオラビート出演)



【活動の成果】 交流館館長を対象に「新型コロナウイルス感染症予防あなたも先生」講座開催。受講後認定証発行（NHK 名古屋ニュース 845 で紹介）交流館から各地域で一斉に感染予防を呼びかけることができた。名城大学では地域におけるボランティア活動を紹介し若い世代に地域の現状を伝えた。

①「新型コロナウイルス感染症予防の手引き」3000部配布、「新型コロナウイルス感染症予防ポスター」県内小中学校1400校、市内交流館、施設、民間企業配布し、啓発活動にも力をいれた。（中日新聞他各社掲載）

②SNS による健康情報の提供、FM ラジオラビートに出演し団体の活動及び健康啓発活動の紹介をすることができた。

【感じたこと】 今年度は緊急性の高い新型コロナウイルス感染症予防をメインに活動を行った。例年通りの対面での健康教室ができない中、オンラインを使っていかにわかりやすく、参加型の講座を行う苦労は多かった。だがコロナ禍



において医療専門職ボランティア団体として本来の役割が果たせる充交流館館長対象に「新型コロナウイルス感染症予防あなたも先生」講座を行い多くの方へ予防方法を広げてもらう機会を得た。

【今後の展開】 同感染症予防については、予防だけでなくかかった場合の対処方法から完治後の免疫力アップの方法などが必要となってくるので、今後は「同感染症に対するトータルケア」を考えて活動をしていきたい。また団体の本来の目的である「病気になってからではなく、病気になる前の予防」に力をいれていきたい。

【小原地域】わくわく事業活動事例紹介

団体名	小原宴火
事業名	手筒花火の製作と実演
会員数	20名
設立年月日	平成29年2月16日
事業概要	<p>手筒花火を通じて小原地区を盛り上げ地域の活性化に貢献する。また、手筒花火の製作と実演方法を習得し、経済的に自立した若者の団体を目指す。</p> <p>①小原の竹を使用した手筒花火の製作・実演研修 ②小原夏まつりやお祭り等での手筒花火の実演 ③地域貢献に関する事業への参加</p>
活動状況	

「ひと月遅れの小原の花火」を開催！

例年、小原夏まつりを中心に手筒花火を披露していますが、コロナの影響でほとんどのイベントが中止に……。しかし、「こんな時こそ小原を元気にしよう！」とメンバーが奮起。感染症対策に配慮しながら独自の花火イベントを開催しました。

初めて打上花火にも挑戦し、地域に元気を届けることができました。また、多くの方々の協力を得ながらも、自分たちの力でイベントを作り上げたことで、今後の活動への自信につながりました。



【ひと月遅れの小原の花火】概要

令和2年9月27日 午後6時30分～（小原ふれあい公園）

※感染症対策のため事前予約制で実施。また、サイリウムで観覧ポイントを設置することで、ソーシャルディスタンスを確保した。

※活動の様子 ～手筒花火ができるまで～



①地元の竹林で手筒に適した竹を伐採します。



②節抜きや油抜きをして竹を筒に加工します。



③筒の強度を確保するため、縄を2重に巻きます。

④火薬詰め



⑤手筒花火を格好よく披露します。

【上郷地域】わくわく事業活動事例紹介

団体名	上和会 花くらぶ
事業名	上和会上屋敷交差点環境美化事業
会員数	20名
設立年月日	平成28年4月1日
事業概要	1. 道路整備された上屋敷交差点の一角を花で飾り、景観を良くする。 2. 四季を通じて花壇を管理し、地域住民との会話や交流を深める。 3. 地域住民や交差点を通るドライバーの心を和ませる。
活動状況	活動内容・成果、活動の中で良かったこと、苦労したことなど

【活動内容】

夏の花の種まきから育苗 (4月～5月)	春の花を抜いて土作り、 夏の花の植付け (6月)	秋から春にかけての、種ま きから育苗(9月～10月)
		
土作り、秋から春にかけて の苗の植付け (11月)	毎日花の手入れと水やり、敷地の草取り (通年)	
		

【活動の成果】

- ・花壇整備を通じて地域の繋がりを持つことができ、年間を通して花壇を花で飾ることができた。また、色鮮やかな花壇により、交差点を通るドライバーや歩行者に癒しを与えた。
- ・豊田市民花壇コンテストにて、最優秀賞を受賞。

【苦労したこと】

- ・夏の猛暑での活動と花の管理が大変であった。
- ・事業費を削減するために、単に苗を購入して植えるのではなく、種から発芽させることにもチャレンジしているが、水と温度管理が難しく、失敗してしまうことがあった。

【団体からの一言】

地域の皆様から「ご苦労様」などの声をかけて頂けることがとても嬉しく、難しいことにチャレンジできる原動力になっています。ありがとうございます！

【末野原地域】 わくわく事業活動事例紹介

団体名	竹の会
事業名	地域竹やぶの環境整備
会員数	48名
設立年月日	平成25年4月1日
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・地域竹やぶの環境整備。 ・竹やぶ内の不法投棄品の処理による清潔な環境へ復元。 ・処分竹材の有効活用。 ・竹を活用による地域の人達、子ども達への支援交流。
活動状況	活動内容・成果、活動の中で良かったこと、苦労したことなど

【主な活動内容】

- ・竹の間伐、草刈り、畑土壌改良用の竹炭づくり、ミニ門松づくり
- ・小学校のピオトープ整備と稲干しのハザ掛けづくり、こども園や小学校へ七夕の竹提供
- ・竹やぶ内の不法投棄清掃処分（2回）



竹の間伐、搬出 雑草処理 R2.10



不要な竹の焼却 炭の活用 R2.1



小学校 稲干しハザ掛け作り R2.9



ミニ門松作り R2.12



竹炭作り(自治区の総会参加者に提供(350パック) R3.3

【活動の成果】

- ・竹やぶ内の間伐と草刈りの実施により、管理された竹やぶになった
- ・竹やぶ周辺が綺麗になったことで、不法投棄が減少した
- ・地域活動への積極的な支援、参加ができた

【苦労したこと】

- ・竹の間伐、搬出運搬・草刈りなど維持管理が大半の作業ですが斜面での作業などに手間取った。
- 新規会員もなく、現会員も高齢化しており今後の活動が心配です。

【今後に向けて】

- ・環境整備を進め、地域の人達の憩いの場を目指す
- ・新規会員の募集(地域だより掲載依頼)
- ・地域活動、こども園や小学校行事に積極的に参加する

【逢妻地域】わくわく事業活動事例紹介

団体名	逢妻女川を考える会
事業名	逢妻女川の環境ふれあい事業
会員数	10名
設立年月日	平成20年7月18日
事業概要	逢妻地区のシンボルである逢妻女川の自然を守りながら、地域のふれあいの場所にするを目的とする。
活動状況	活動内容、成果、活動の中で良かったこと、苦労したことなど

【活動内容】

- ・毎週日曜日の草刈りとゴミ拾い、毎月の水質調査
- ・特定外来生物（オオキンケイギク）の駆除
- ・愛知学泉大学、豊田市矢作川研究所と連携した外来生物（ミシシッピアカミミガメ）の捕獲調査
- ・親子体験教室の実施（令和2年度は中止）
- ・逢妻交流館の水槽大掃除
- ・逢妻女川クリーン活動（逢妻地区コミュニティ会議主催）に協力、参加（令和2年度は中止）
- ・逢妻コミュニティふれあいまつりで活動報告、生き物展示（令和2年度はパネル展示に変更）



逢妻女川水質調査（令和2年1月）



逢妻女川の草刈（令和2年7月）

【活動の成果】

- ・この事業によって、不法投棄の削減や在来生物の保護などによる自然環境を改善することができます。
- ・ふれあいまつりに参加し逢妻女川の自然をPRしたり、親子体験教室を開催することで、地域住民の皆さんに関心を持ってもらうことができ、地域への愛着を育むことができました。
- ・官、学、民の共働で外来生物の捕獲調査を行ったことで、自然環境保全に関する知識を深め連携を強化することができています。

【活動の中で良かったこと・苦労したこと】

長年の活動を評価され、昨年度は愛知県環境保全関係功労者表彰、今年度は環境省から地域環境美化功績者表彰を受賞することができ、活動の励みになりました。

【今後の展望】

- ・「みんなで 無理なく 工夫して」を合言葉に今後もいろんなことにチャレンジしていきます。
- ・今後は流域全体を捉えた活動ができるようになるとよいと考えています。

【朝日丘地域】 わくわく事業活動事例紹介

団体名	三軒屋子ども交流教室
事業名	子どもプログラミング教室
会員数	34名
設立年月日	平成27年4月1日
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の高齢者が小学生に対してプログラミングの基礎を指導する。 ・活動を通じて、高齢者の生きがいを高め地域の活性化につなげるのとともに、高齢者と子どもが交流する機会を創出する。
活動状況	活動内容・成果、活動の中で良かったこと、苦労したことなど

【活動内容】

- ・小学校の夏休みと冬休み期間の他、毎月第1土曜日に活動しています。
- ・micro:bit やスクラッチといった言語や機材等を使って、子ども達が楽しくプログラミングを学べる教室を開いています。

【活動の成果】

地域の小学校とも連絡を取りながら、活動を行っています。
社会情勢や小学校のプログラミングの授業にも対応しながら教室開講が出来ており、子ども達自身も楽しくプログラミングを身に付ける場を提供しています。



<活動風景>

【活動の中で良かったこと】

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症により活動が制限されることが多く、これまでどおりの教室開講が困難でした。しかし、子ども達から熱い要望があったため、なんとか教室を開講し、クリスマスイルミネーション用のプログラムを完成させることができました。点滅するライトを見て、子ども達やその家族もイルミネーションを見てとても感激されておりました。子ども達の喜んだ顔を見ると、活動をしていてよかったと強く感じます。

【活動の中で苦労したこと】

- ・パソコンを複数台稼働できるインターネット環境の整備
- ・パソコンのプログラム更新などの維持管理

【今後の展望】

- ・活動の担い手の育成のためにも、今後は、地域の高齢者だけではなく、子ども会の保護者や大学生等の方々と協力しながら、活動を続けていけると良いと思っています。

【梅坪台地域】 わくわく事業活動事例紹介

団体名	梅坪小区の歴史と文化を伝える会
事業名	梅坪台地区の歴史と文化を伝える事業
会員数	13名
設立年月日	平成30年9月11日
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・梅坪台地区の歴史と文化を調査・記録し地域の歴史や文化を掘り起こす。 ・調査した歴史や文化を冊子にまとめ地域に発信することで、地元住民の地域に対する意識や誇りを高める。
活動状況	活動内容・成果、活動の中で良かったこと、苦労したことなど

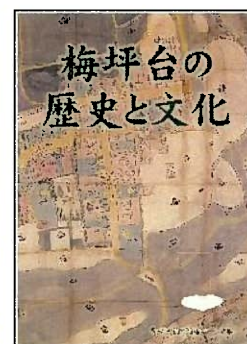
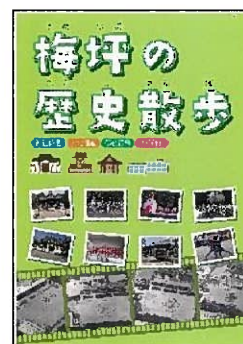
【活動内容】

「梅坪の歴史散歩」の編集・発行（R1）

- ・梅坪地区の歴史をまとめた冊子。
- ・地域の子どもに向けて作成。
- ・簡易な表現などを多用し、わかりやすい内容とした。

「梅坪台の歴史と文化」の編集・発行（R2）

- ・前年度に作成した「梅坪の歴史散歩」を発展させて編集した。
- ・地域住民全般に向けた内容のもの。
- ・前年に編集したものより文化の記述を充実させた。



【成果】

- ・地域住民への聞き取りを行うなど、地域を巻き込んだ取組みができた。
- ・地元住民の梅坪台地区に対する意識や誇りを高めることができ、地域活性化の一助とすることができた。

【良かったこと・苦労したこと】

- ・両冊子発行後は各種メディア（新聞、ひまわり）で活動が取り上げられるなど、反響が大きかった。梅坪台地区にとどまらず他地区へも梅坪台の歴史を紹介できる良い契機となった。
- ・過去の地区の状況を知っている地域住民を探したが、なかなか見つからず苦労した。

【今後の展望】

- ・作成した冊子をツールとし、梅坪台地区の歴史と文化を同地区内に伝承していくことで、地域住民がまちを誇りに思い、まちをより愛していくような気風を醸成していきたい。

【浄水地域】わくわく事業活動事例紹介

団体名	浄水町まちづくり協議会
事業名	浄水まちづくり事業（シラタマランド整備事業）
会員数	95名
設立年月日	平成13年6月1日
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・自然に触れ合える場所づくり（シラタマランド）の活動を通じ、世代間交流や協力を促進し、地域の連携を強化する。 ・絶滅危惧種に指定されているシラタマホシクサの保護活動。
活動状況	活動内容・成果、活動の中で良かったこと、苦労したことなど

【活動内容】

- ・シラタマランドの整備事業

⇒遊歩道の整備

太陽光が差し込むように樹木の伐採、間伐 など

- ・シラタマホシクサの保護活動と湿地帯周辺の整備

⇒希少植物を通じ、子どもたちを含め地域住民に環境の大切さを再認識する機会を提供



＜シラタマホシクサ＞

東海地方固有の湿地植物で、国の絶滅危惧種に指定。
30センチ程の背丈の一年草で、白い球のような花が咲く。
その様子が金平糖に似ていることから、「金平糖草」とも呼ばれる。

【成果】

- ・地域住民が一緒になって整備活動に取り組むことで、地域の連携を強化することができました。
- ・シラタマホシクサの見頃の時期に地域へPRを行うことで、地域住民の皆さんに関心を持ってもらうことができました。

【良かったこと・苦労したこと】

- ・良かったことは、活動によりシラタマホシクサの認知度が少しずつ高まってきたことです。

- ・自然を相手にすることなので、シラタマホシクサや植物が思いどおりに開花しないこともあります。多くの方の協力を得ながら活動のモチベーションを高めています。



シラタマランド整備の様子



【今後の展望】

- ・今後も継続して、地域住民に協力の呼びかけやPRをし、地域全体でシラタマランドの保護活動を進めていきたいと思っています。

【崇化館地域】 わくわく事業活動事例紹介

団体名	ぬくもり♡ねっと
事業名	子どもの居場所づくり（子ども食堂）事業
会員数	13名
設立年月日	平成30年7月14日
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の状況から「子どもの居場所づくり」の必要性を感じ、子どもの貧困と経済面のみでなく、体験不足等からも子どもの憩いの場と「食」を結び付けての子ども食堂を開催する ・子ども達が「行ってみよう」と思える場であり、子ども達を温かく受け止め、つながりながらコミュニティの輪を広げていく
活動状況	活動内容・成果、活動の中で良かったこと、苦労したことなど

【活動内容】

- ・毎月第3土曜日に交流館の調理実習室を借りて、大人と一緒に食事を作って食べます。
- ・会場に来た子から、食事会場に季節の飾りつけを行います。
- ・食事の後は、読み聞かせやゲームをしてみんなで一緒に遊びます。



作った食事を食べよう



お年玉（ぼち）袋を作ろう

【活動の成果】

- ・親が忙しく孤食になる環境や、栄養バランスの偏りなど、心身の健全な発達につながることを目指しています。
- ・環境整備では、予算としてわくわく事業補助金、地域での位置付けとして交流館の自主グループ認定、人的支援として社会福祉協議会、市福祉総合相談課、食材の支援として農ライフ、生協生活クラブ、市内の農家、農林水産省、地域の企業支援として挙母タクシー、第一生命、洞泉寺などからの支援を受け、活動しています。
- ・地区コミュニティ会議でも交流館の取り計らいで、福祉委員会と体験交流をしました。



間違い探しで遊ぼう

【今後の展望】

- ・管理栄養士や調理ボランティアだけでなく、遊びのプロなどのスタッフの募集
- ・大学生の定量的なボランティア人数の確保
- ・子どもたちの日常から充実に 学習支援へと結び付けたい

【活動の中で良かったこと・苦労したこと】

- ・管理栄養士や調理ボランティアなどのスタッフも次第に増え、今では2班に分け、隔月でのボランティア体制ができるようになったこと。
- ・対象学年を3～5年としており、応募してきてくれる子どもたちも徐々に笑顔が増え、仲良くなることのできたこと。
- ・提供して下さる食材が季節や作高、食材に消費期限により、メニューが定まらないため、購入する食材も多くなる時があること。
- ・中京大学の学生が、調理ボランティアとして参加してくれるようになったこと。
- ・調理実習室の定員により、もっと多くの子どもたちに参加してもらいたいが難しいこと。

【豊南地域】わくわく事業活動事例紹介

団体名	水源公園を愛する会
事業名	矢作川沿いお休み場の景観づくり
会員数	20名
設立年月日	平成20年6月20日
事業概要	公園の一角にある花壇に四季に合う花苗を植えたり、花壇周辺のベンチ・テーブル・歩行帯等の保守管理を行ったりして、お休み場の景観維持向上をめざす。

(活動内容)

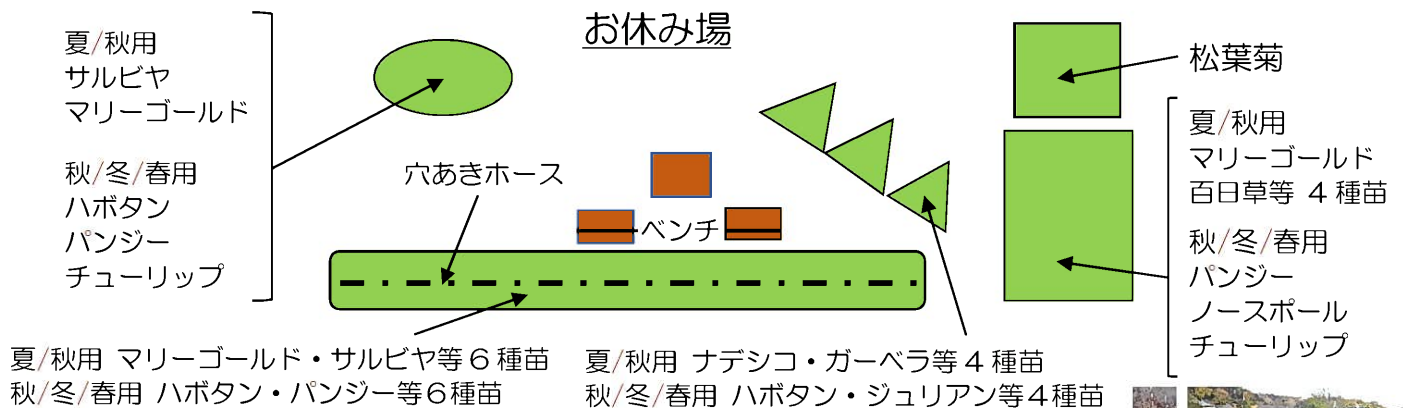


活動メンバーの皆さん

(ねらい)

- ▽ なじみ易い花壇づくり……地域の皆さんとの相互交流
- ▽ 四季を通して花咲く公園…地元水源公園の景観アップ
- 全体活動 1～2回/月 土曜日の朝 1.0H程度
(内容) 花植替え・除草・花壇及び施設類の保守管理
- 日常活動 平均1回/2日 2人/回
(内容) 水やり・花手入れ・ゴミ回収

① 四季に合う花苗の植付け保守管理



② 水やりの効率化 → 穴あきホース約30mの設置「ながら散水」

③ 苗を会員の家庭で育成 (ポット上げ後) → 松葉菊・ノースポール等 4 種苗

④ 公園内ベンチ類の塗装補修



パンジーの植付



ながら散水



お休み場の全景

(成果)

- ・会員相互の交流の中で、来場者に「四季を通して花咲く景観」を、提供することができた。

(良かった事)

- ・来場者と「次は何を植えるの？」等の話の交流がやる気につながった。
- ・永年苦勞の水やりは、今期「ながら散水」を実施し負担の軽減が図れた。

(今後の展開)

- ・ながら散水の拡大をし、さらなる水やりの効率化を図ります。
- ・新たな仲間を募集し、会そのものもより明るくなればと思っております。これからも水源公園の美しい景観を保てるように活動していきます！

【井郷地域】 わくわく事業活動事例紹介

団 体 名	井郷地区自主防災会
事 業 名	井郷地区の防災・減災意識向上啓発活動
会 員 数	10名
設立年月日	平成27年9月12日
事業概要	「東海・東南海地震」の発生が危惧されているなかで、地域の人的・物的被害を最小限に抑えるために「地域の防災・減災意識の向上並びに防災力の向上」を目指した活動を展開する。
活動状況	活動内容・成果、活動の中で良かったこと、苦労したことなど

【活動実績】

- ・ 6月～8月 避難所マニュアルの作成に向けた検討会
- ・ 9月 避難所運営模擬訓練開催に向けた検討会
- ・ 10月 避難所運営模擬訓練開催
- ・ 11月 避難所運営模擬訓練のまとめ及び防災訓練実施要領の検討
- ・ 12月 井郷地区防災訓練（避難所運営マニュアル(案)に基づく避難所運営訓練
- ・ 1月～3月 井郷地区防災訓練のまとめ及びマニュアルの検討
- ・ 2月 「井郷防災だより」の全戸配布

【模擬訓練状況】



・ 居住グループ長会議



・ 避難所運営委員会

【活動の成果】

防災訓練は、模擬訓練の反省点が生かされ、問題なくスムーズに進行できた。訓練参加者からは、概ね良い評価をいただいたことから、今後に向けて正式なマニュアルに基づき、4か所の指定避難所で訓練を展開していく。

【防災訓練状況】



・ 各運営班会議状況



・ 避難者居住スペース

【活動の中で良かったこと・苦労したこと】

コロナ禍で会議を開催することができず、避難所運営マニュアルの作成が遅れ当初予定していたスケジュールより時間を要した。避難所運営の重要性と繰り返し訓練の必要性への意識付けができた。

【石野地域】わくわく事業活動事例紹介

団体名	東広瀬地区名鉄三河線廃線敷愛護会
事業名	東広瀬地区名鉄三河線廃線敷整備事業
会員数	10名
設立年月日	令和2年3月28日
事業概要	名鉄三河線廃線敷の竹木を除去するほか、遊歩道の整備、植樹等を行い、風景の多様な変化を楽しめるウォーキングコースを整備する。
活動状況	活動内容・成果、活動の中で良かったこと、苦労したことなど

名鉄三河線廃線敷では、猿投駅から旧西中金駅までを結ぶ約8.6キロメートルの区間で、旧駅舎を中心に、地元の団体が地域住民の交流のための活動を行っています。

当会は、主に東広瀬町内の廃線敷とその線路そばに繁茂する草木や竹を取り除き、景観を整備することを目的にこの事業を始めました。また、訪れた人が快適に散策できるよう、



線路内を碎石や竹チップで均すことにも取り組んでいます。

当初は竹の除去が思いどおりにゆかず、非常に苦労しましたが、地道な作業を続け、それまで手つかずであった区間を切り拓くことができました。

また、それまで竹によって遮られていた視界が開け、廃線敷から矢作川の流れを望むことが



ができるようになったほか、陽当たりがよくなって、野生の紅葉が美しく色づくようにもなりました。この事業に賛同した方が、途中から当会の仲間に加わったのも非常に嬉しいことでした。

もともと旧三河広瀬駅は訪問者が多いのですが、この活動を始めてから、駅から廃線敷を歩く人がいっそう増え、やりがいを感じています。

そして、いつか車窓から見た景色が地域の皆さんの胸によみがえり、ふるさとへの思いを新たにしていだけたら、大変に幸せなことです。

【猿投地域】わくわく事業活動事例紹介

団体名	猿投町まちづくり協議会
事業名	ふれあい広場登山道（仮称）の整備事業
会員数	33名
設立年月日	平成17年5月1日
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな猿投山登山道の整備（令和元年度、令和2年度） ・猿投神社紅葉林、武田道、登山者用駐車場、広沢川等の草刈り
活動状況	活動内容、成果、活動の中で良かったこと、苦労したことなど



倒木除去の様子（2年5月）

【活動内容】

- ・令和元年度倒木を除去、砂利で敷設し5月から6月丸太で階段を取付け。
- ・7月猿投神社紅葉林の草刈り、枯れ木の除去。
- ・9月登山道に私有地立入禁止看板を設置し、広沢川草刈り。



看板設置の様子（2年9月）



階段取付けの様子（2年5月）

【活動の成果】

- ・近年、猿投山登山の人气が高まり、駐車場不足のため路上に車があふれている状態でした。
- ・棒の手会館の駐車場を利用できるように新しい登山道を整備して、駐車場不足を解消したいとこの事業に取り組みました。
- ・わくわく事業補助金の支援で、山中観音堂から棒の手ふれあい広場の境界までの315mを遊歩道として開設し、駐車場への近道として整備することができました。

【活動の中で良かったこと・苦労したこと】

- ・倒木を除去したり、木の枝を伐採したり、もともと人が通らない道を整備することは、大変な作業でした。令和3年2月に中日新聞に取り上げられたことにより、現在では、棒の手会館の駐車場を利用する登山者が増加し、駐車場不足の解消と猿投山周辺の魅力向上を図ることができました。

【今後の展望】

新登山道の維持管理 ・新登山道の整備 ・階段の点検の実施

【団体からの一言】

会員のみんなと一緒にいい汗を流して活動しています。

今後はふるさとの川づくりをして地域住民に楽しんでもらえるような事業を行う予定です。

【猿投台地域】 わくわく事業活動事例紹介

団体名	青木台たすけあいの会
事業名	高齢者、障害者の方への「困りごと」お手伝い事業
会員数	39名
設立年月日	令和2年6月6日
事業概要	・青木台自治区の高齢者が「ちょっとした困りごと」がある場合、気持ちに寄り添い、「助け合い」ができるまちづくりを進めるとともに、生きがいを感じられるふれあいのある青木台を目指す。
活動状況	活動内容、成果、活動の中で良かったこと、苦労したことなど

【活動内容】



庭木の撤去作業の様子（2年10月）

ボランティア会員が1時間以内で行える程度の軽作業で専門的な技能を要する高度な作業などは活動対象外とします。

- ・火災報知器、照明器具の清掃・電球交換など高齢者が対応に難しい宅内の高所作業。
- ・宅内における大型家具の移動及び取り付け作業。
- ・庭の草刈り、庭木の剪定・伐採・撤去作業。
- ・本人では困難な日常一般的な軽作業。

【活動の成果】

- ・依頼件数8件(一人暮らし5件)をお手伝いし、依頼者様から感謝の言葉を頂いております。
- ・自治区の高齢者、身障者の日常生活の「困りごと」を地域で支えあい、安心して暮らせる地域づくりに貢献。
- ・依頼者宅、近所のボランティア会員をお手伝いさせることにより依頼者に安心感をあたえ近所のコミュニケーションが向上しました。

【活動の中で良かったこと・苦労したこと】

- ・作業は複数人で、女性宅には女性が立ち会う。
- ・作業中はベスト着用、身分証を明示するなど依頼者に安心感を与えた。



家具移動の様子（2年11月）



照明器具取替の様子（2年9月）

【今後の展開】

- ・依頼者に寄り添えるボランティア団体で有ること。
- ・区民に周知され浸透するPR活動。
- ・依頼者条件を緩和し気楽に依頼できるボランティア団体。

【団体からの一言】

- ・助ける人と助けられる人の関係が深まりコミュニケーションが広がった。
- ・高齢者でも誰かの役に立つと思えることで生き甲斐を見いだした。

【保見地域】わくわく事業活動事例紹介

団体名	保見の歴史を伝える会
事業名	保見地域の歴史を伝える事業
会員数	19名
設立年月日	平成29年10月29日
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・「伊保郷史跡名所ガイドマップ」(携帯版)を作成し多くの人に地域の歴史遺産を伝える。 ・地域に多くの遺跡・古墳・城跡等があり種々の出土品が発掘されており古くから市内外の地域に負けない伝統ある郷土であることを世間に知っていただきたい。 ・地域の歴史を通じて郷土愛、郷土の一体感、活性化の一助にしたい。
活動状況	活動内容・成果、活動の中で良かったこと、苦勞したことなど

【活動内容】



ガイドマップ活動の様子(7月18日)

- ・「伊保郷史跡名所ガイドマップ」(以下ガイドマップという。)の作成については、会発足後、学習した地域の史跡名所など、私たちの先人が残してくれた歴史遺産を地域住民に知っていただき、次世代に語り繋いでいただきたい。そして、歴史に関心がある愛好家用に、あるいは、一人でも多くの歴史ファンを増やしたいと思い作成した。
- ・広見城址の整備については、頂上までの進入路を丸太木材で階段作りをした。現在、全長の間位まで完成できた。また、城址の施設ごとに施設名を掲示した。

【活動成果】

- ・「ガイドマップ」発行については、中日新聞で報道していただき、また、保見交流館窓口での配付などで、多くの地区民を始め、地区外市民からも素晴らしい歴史資料ができたと好評を頂いている。また、“地元に住って知らなかった史跡名所の多いことにびっくりした”との声がチラホラあったと伝え聞いた。
- ・モデルコースが7コースあり、“地図と関係史跡名所の説明紙面が同じ面に掲載してあるので、利用者の立場でつくられている。”と言って喜ばれている。また、“ガイドボランティアを希望する団体(10人以上)には希望に応じてくれる。”となっておりお褒めを頂いた。

【活動で①良かったこと②苦勞したこと】

- ①会の最大目標であった「ガイドマップ」を発行でき多くの地元民に喜ばれたこと。
- ②今年度は新型コロナウイルスに伴う緊急事態宣言の為、多くの地域行事が中止になったので殆どの史跡ガイド活動ができず残念でした。



広見城址の整備(10月1日)

[今後の予定]・新年度は会員のガイド力向上に向け、ガイド手引書の内容補足と分かり易いガイドの研修を行う。

- ・「ガイドマップ」の看板を保見交流館の敷地内に設置する。



広見城址の見学会「とよた学生もりあげ隊」(12月5日)



広見城址見学、大畑小の発表会(2月8日)

【下山地域】わくわく事業活動事例紹介

団体名	三河湖 SS 広報部
事業名	三河湖 SS プロモーションビデオ作製
会員数	9名
設立年月日	令和2年7月1日
事業概要	三河湖 SS プロモーションビデオを作製し、DVD 配布やインターネット等で配信することで、地区住民を始めとして広くラリーイベントを広報する。
活動状況	活動内容・成果、活動の中で良かったこと、苦労したことなど

【活動実績】

- ・ 8月 プロモーションビデオ（以下「PV」）企画会議
- ・ 9月 PVシナリオ作成
- ・ 10月 軽トララッピング、PV撮影・編集
- ・ 11月 PV完成（ユーチューブ公開）、豊田市長へ完成報告、中日新聞等掲載
- ・ 2～3月 ラッピング軽トラ2号機制作、走行イメージ（倍速）動画作成



【活動の成果】

プロモーションビデオの制作を通じ、豊田市長や勝田貴元選手の協力を得ることができ、地元新聞にも取り上げられたことで、2021年11月の世界ラリー三河湖SSの盛り上げに貢献できた。

世界ラリーの開催地として、地元で一丸となって盛り上げるため、地域の若者を中心に有志が集い、コロナ禍の中でも、アイデアと工夫により、楽しみながら一つの成果を収めることができた。

【前林地帯】 わくわく事業活動事例紹介

団体名	駒新お助け隊 2027
事業名	困り事のお助け・緊急時の支援活動
会員数	29名
設立年月日	平成31年1月1日
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ご高齢で独り住まいの方々の、ちょっとした困りごと解決支援。 ・自治区の避難行動要支援活動。
活動状況	活動内容・成果、活動の中で良かったこと、苦労したことなど

【活動内容】

- ・毎月第2日曜日、社協担当者に参加いただく運営委員会にて、ご高齢で一人住まいの方々の近況確認や困りごとを受ければその対応策を話し合っています。
- ・今年は①畑の草刈り②庭の草刈り③市道沿い林の雑木伐採④庭木の伐採、4件実施。
- ・逢妻女川右岸堤防と2000年9月の東海豪雨水害浸水域の海拔差を、自主防災マップへ転記。

【活動の成果】

- ・駒新町に“災害時や困りごとを支援してくれる”お助け隊が活動しているのでご高齢で独り住まいの方から「安心です」と言葉をいただいています。
- ・海拔計を使って測定を実施したことで、東海豪雨では河川水位が逢妻女川右岸堤防を越え、堤防と同じ高さまで浸水したことが明らかになり、この結果を、今後の要支援活動に活用できる。



「市道を雑木が覆いかぶさる対策」



「庭木の伐採後、ご本人と片付け作業」

【一年の活動を通じて】

- ・コロナ禍で活動が制限され、活動に幅広いメンバーの参加は望めなかったが依頼を受けた案件はすべて対応できました。
- ・依頼案件毎の費用検討をする中で、“ボランティアとは”の議論が継続している。

【今後の展望】

- ・運営委員会で議論を重ね、災害時の支援方法など具体的な活動へ繋げていきます。

【竜神地域】わくわく事業活動事例紹介

団体名	竹中脳げんき会
事業名	地域高齢者の心身の健康維持事業
会員数	37名
設立年月日	平成19年4月1日
事業概要	・地域高齢者の定例的な集まりの場を作り、皆で一緒に健康維持活動に取り組むことで地域の高齢者の健康増進を図る。
活動状況	活動内容・成果、活動の中で良かったこと、苦労したことなど

【活動内容】

平成18年、市の「脳力アップ健康講座」を自治区が実施したことを契機とし、自治区内に脳活性化ゲームのデザインを研究されている方が地域におられたこともあり、平成19年に自治区、老人クラブ、民生委員が一丸となって会を結成し活動を開始。

- ① 専門リーダーの指導のもと多彩で飽きない、**運動レクリエーション**（ストレッチ、筋トレ、リズム運動、脳と体を一緒に使う運動を織り交ぜた活動）
- ② 頭と体を使う**軽スポーツ**
- ③ 新しい**脳活性化ゲーム**
- ④ **創作活動**（切り絵、ちぎり絵、しめ縄飾づくりなど）
- ⑤ 地域の資源を活用した**お楽しみ会**（ぶどう狩りやコスモス鑑賞会）等、**多彩で楽しい活動**を展開

【活動の成果】

広い会場での運動レクリエーションや屋外でのグラウンドゴルフの実施。



令和2年6月25日
運動レクリエーション



令和2年10月22日
グラウンドゴルフ



令和元年度実施
脳活性化ゲーム（テーブルゲーム）



令和2年8月27日
ぶどう狩り

【会の現状と今後の課題】

- ・会の活動は地域に定着しており、高齢化のため退会される方も出る一方、評判を聞いて新規に参加される方もおられる。会員数は安定しているが、会員の平均年齢は高くなってきている。今、コロナ禍のため満足な活動ができない中、活動のポテンシャルを維持していくことが課題となっている。
- ・会を主導されていたメンバーがいなくなり、脳活性化ゲームや新規ゲームへの取り組みが難しくなっているが、蓄積したプログラム、ノウハウを活用し会の継続を図って行く予定である。

【若園地域】わくわく事業活動事例紹介

団体名	中根風土記編集委員会
事業名	「中根風土記（仮称）」の編纂
会員数	35名
設立年月日	平成30年12月1日
事業概要	1)中根町の発展の足跡を多面的に調査し「歴史年表」にまとめ、年表を元に「風土記」にまとめ過去の歴史と現在の活動をつなげて、未来へ継承する語り部・地域の担い手を生み出す。 2)取組期間4年（コロナ禍で1年延長）：2022年度に製本・DVD版制作、配布。
活動状況	活動内容・成果、活動の中で良かったこと、苦労したことなど

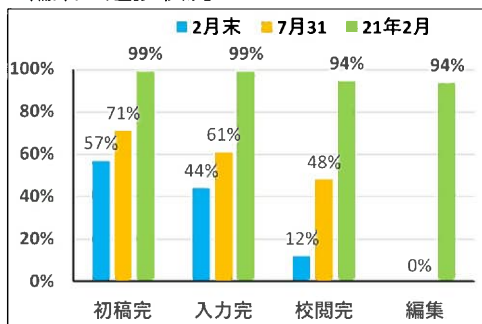
編集会議（分科会の報告・調整など）



神社で埋もれていた資料の発掘、
収集資料はデジタル化し調査・継承



編集の進捗状況



【活動内容】

- 1)編集作業環境整備 …"デジタル化・新しい技術を積極活用"
 - ①多人数作業・会議 ⇒ 複数 PC・無線 LAN 環境構築。
 - ②OneDrive で情報共有・在宅作業・共同作業化。
 - ③レイアウト・デザインソフト(InDesign・Illustrator)を導入。
 - ④ドローン動画や大量データの編集体制準備(ポータブルHD・PC)。
- 2)編集・取組み体制
 - ①編纂業務のフロー・分科会体制を体系化して推進。
 - ②入力・校閲の進展に伴い、編集・製本グループに転換し推進。
 - ③項目毎の原稿の進捗管理と、進捗の見える化を実施。

【活動の成果】

- ・試作 5.4 版・製本デザイン版作成まで進展。
- ・ドローン撮影・挿絵の協力者拡大(5名)。
- ・専門家の協力・アドバイスで内容が充実。

ドローン撮影(10月～)



試作版 5.4・デザイン試作版
(A4版・約 260 ページ)



三河線高架化に伴う地域の変化を動画で記録
20.11.22 21.01.30



【活動の中で良かった点・苦労したこと】

- ・コロナ禍で会合中止でも、デジタル化・OneDriveの採用先取り・情報共有で事業の遅れを最小限にできた。
- ・他団体と交流し新規取組みが進展：ドローン活用・拓本
- ・情報共有・編集データの増加でPCの動作不良が頻発。

【団体からの一言】

- ・後期高齢者中心の団体ですが若手の参加でデジタル力がアップしました。
- ・歴史の伝承、デジタル化・公開方法の検討などのメンバーを募集中です。

【若林地域】わくわく事業活動事例紹介

団 体 名	高美町桜並木保存会
事 業 名	高美町桜並木の景観整備事業
会 員 数	37名
設立年月日	平成20年2月21日
事業概要	<p>樹齢50年を超えた140本の桜並木の保存を目的とする。樹木の老化を和らげるための施肥や雑草の刈取りを行い、遊歩道の環境を整えることで市民に憩いの場を提供する。</p> <p>①下草刈り、施肥、胴吹き芽やヒコバエの剪定等の桜樹の養生を実施 ②桜並木下側の遊歩道の草刈りや落葉処理等を実施 ③桜樹台帳（カルテ）を作成し、生育・伐採などの実施状況を管理</p>
活動状況	活動内容・成果、活動の中で良かったこと、苦労したことなど



桜花爛漫



夏の草刈り状況



秋の施肥

【活動内容】

- ・下草刈り5回、施肥2回、胴吹き芽やヒコバエの剪定1回、刈草や枯枝の集積3回（渡刈への運搬処分1回）※令和2年度実績
- ・桜樹の生育調査の実施（桜樹140本の生育状況を目視で確認し、枝詰め、伐採等を判断）
- ・桜樹業者による処置への立会（2日間。伐採1本、幹切り5本、枝詰め18本）

【成果】

- ・桜は日本の国花。昨年春には令和の最初のお花見を多くの方々に提供できた。

【活動の中で良かったこと】

- ・平成25年4月にさくら功労者として財団法人「日本さくらの会」から表彰され、平成28年2月豊田市若林地域の「未来に残したい豊田の風景」にも選ばれた。
- ・わくわく事業補助金を得て、備品・道具を格納する念願の専用倉庫を新設。作業能率が向上した。

【苦労したこと】

- ・桜並木沿いのお宅は落花・落葉の清掃を連日余儀なくされている。これらの方々に更なるご迷惑をおかけしない様に気配りしながら活動している。
- ・桜は通年で人手を必要とする繊細な樹木であり手抜きはできない。
- ・当団体は企画力および活動力はあるが経済力が無い。わくわく事業補助金に頼らざるを得ない。

【今後の展望】

- ・この桜並木の存続には「老木の養生をしながら、若木の補植・育成に力を注ぐ」必要がある。

【高橋地域】わくわく事業活動事例紹介

団体名	岩本川創遊会
事業名	親子が創る遊ぶ育むふるさとの川
会員数	13名
設立年月日	平成29年3月26日
事業概要	<p>①地域住民の手で生きものが住みやすい川づくりを行い、岩本川の自然を保全する。</p> <p>②子ども向けの川遊び体験会を行い、親子でふるさとの自然や魅力を体験するとともに、平井小学校の課外授業のフィールドとして継続的に活用してもらう。</p> <p>③身近にある岩本川に愛着をもち、ゴミ拾いや草刈りなどふるさとの川を地域住民の手で育む。</p>
活動状況	活動内容・成果、活動の中で良かったこと、苦労したことなど

①活動内容、成果

- ・魚道などの川づくり
- ・草刈りやゴミ拾い
- ・親子川遊び体験会（岩本川探検隊）の開催（→2020年度は残念ながら中止）
- ・平井小学校課外授業のお手伝い

これらの活動を通して、地域住民のふるさとへの愛着心が醸成され、地域活動への参加が活発化する効果が期待できるとともに、子どもたちへの安全な自然環境学習の場が提供でき、健全育成を図ることができる。



②活動の中で良かったこと、苦労したこと

- ・毎年、平井小学校課外授業のフィールドとして活用され、ますます川で遊ぶ子供が増えたので嬉しい。
- ・コロナ禍でイベントが開催できず、寂しい一年だった。

もっと水辺でみんなが集う川にしたい

【益富地域】わくわく事業活動事例紹介

団体名	五ヶ丘東ちょこっとお助け隊
事業名	高齢者・障がい者児等が安心して暮らせるまちづくり推進事業 (地域のお助け隊)
会員数	28名
設立年月日	令和元年12月8日
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者・障がい者児等の日常生活の困りごとを地域で支え合い、みんなが安心して暮らせる地域づくりに貢献する。 ・小学校・幼稚園等の日常の困りごとを支えることにより、地域の子どもたちの健全な育成に貢献する。 ・地域ボランティア設立により、住民同士の交流の輪を広げ、いつでも互助できるまちづくりに貢献する。
活動状況	活動内容・成果、活動の中で良かったこと、苦労したことなど

【活動内容】

- ・高齢者・障がい者児等からの困りごとへの支援
話し相手・散歩の見守り・電球や蛍光灯の交換
庭の除草・庭木の枝払い・家具家電製品等の移動
火災警報器の点検・ゴミ出し 等
- ・小学校・幼稚園等からの支援要請への対応
下校見守り・グラウンド整備・授業サポート等
- ・隊員募集の施策立案・実行



【成果】

- ・コロナの影響により個人からの依頼が2件となった。今後は個別訪問し、地域の認知度向上に努める。
- ・毎月の定例会に参加できない方（勤務等）への情報発信にLINEを活用とした情報伝達・月次隊員報発行による情報発信を行った。

【活動の中で良かったこと、苦労したこと】

- ・コロナ禍で、積極的な訪問や活動が制限された。
地区内の全家庭に「季刊報」を発行し、徐々に認知されてきたと感じる。
- ・予定していた月例会が、コロナの影響で一部中止。
「隊員通信」を毎月発行し、団体内の情報共有に努めた。

今後

コロナ禍での「積極的な御用聞き」の具体的な手法、ルールを構築する。
対象者が期待していることをヒアリングし、期待に沿えるようルールを変更する。

【美里地域】わくわく事業活動事例紹介

団体名	美里1丁目お助け隊
事業名	美里1丁目高齢者を支える事業
会員数	8名
設立年月日	平成31年4月1日
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の困っていることを支援し解決する。 ・地域のことは地域で助け合う仕組みを目指して活動する。
活動状況	活動内容、成果、活動の中で良かったこと、苦労したことなど

【活動の内容】

- 高齢者宅にて、以下の作業を行う。
 家の外：庭木の剪定、草刈りなど
 家の中：家具転倒防止、家具移動、電球交換、掃除、話し相手など
- 小学校の環境整備、自治区内の環境美化を行う。

【活動の成果】

- ◎令和元年度 活動回数12回
 庭木の剪定、ゴミ出し、草刈り、草取り
- ◎令和2年度 活動回数23回
 庭木の剪定、家具移動、草刈り、草取り



梅の木剪定中



剪定後掃除

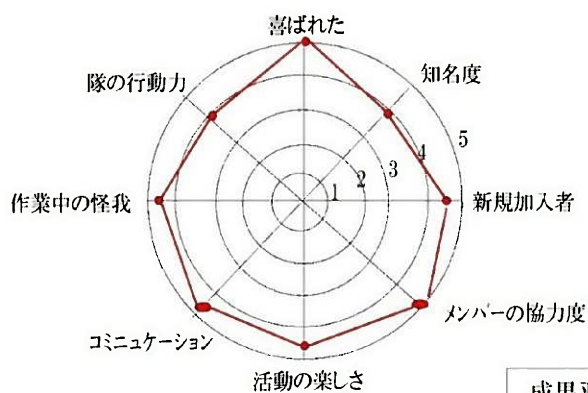


草刈中



家具移動中

事業成果：（自己評価）



【活動の中で良かったこと】

- ・依頼主からの「ありがとう」が心地よい。
- ・作業中に地域の方が「一緒に草取りしてもいいよ！」と声を掛けてくれ、一緒に活動できました。
- ・会員の得意な分野を活かせる場所でもあるので、会員も楽しみながらお助け活動をしています。

＜楽しむのが活動を長く続けるコツです。
 会員数も5名→8名に増加！＞

【活動の中で苦労したこと】

- ・剪定中にスズメバチ出現
- ・天候に作業が左右される

反省点：知名度がまだ低いので次年度は工夫したい

抱負：地域のことは、地域の中で対応できる仕組みづくりを目指す！

～ 助け上手 助けられ上手 支え上手 支えられ上手 な地域を目指して～

【藤岡地域】わくわく事業活動事例紹介

団体名	木瀬四季の里山づくり実行委員会
事業名	木瀬地区の里山づくり事業
会員数	80名
設立年月日	平成17年10月1日
事業概要	木瀬地区の魅力アップ、地域住民の生きがい・健康づくりを目指し、里山づくり、高齢者と若者のふれあい等の事業を行う。 ①遊歩道の維持管理、花・樹木の植栽、ふじの維持管理 ②蛍の育成と鑑賞会実施 ③紅葉ライトアップイベントの実施 ④地元中学生へのふじ生育講習会 等
活動状況	活動内容・成果、活動の中で良かったこと、苦労したことなど

【活動内容】

①遊歩道の維持管理、花・樹木の植栽、ふじの維持管理

- ・滝周辺の下草刈り、ふじの選定等

②蛍の育成と鑑賞会実施

- ・蛍の幼虫放流
- ・鑑賞会会場準備等

③紅葉ライトアップイベントの実施

- ・コスモス畑の準備
- ・ライトアップ逆さ紅葉の準備等

④地元中学生へのふじ生育講習会

- ・藤岡中学校の生徒に選定方法、管理方法を講習
(令和2年度はコロナ感染拡大防止のため中止)



ふじの維持管理



紅葉ライトアップ

【成果・良かったこと】

- ・コロナで各種イベントが中止となる中、マスクの着用や密にならない様に注意を呼びかけ、開催時間を短縮するなど実施することが出来ました。
- ・特に秋は、紅葉ライトアップに加え、日中は昨年から新たに挑戦したコスモス畑も最高の見頃となり、市内はもちろんのこと、市外、県外からも多数の来場がありました。

【今後の展望】

- ・四季に渡り楽しむことができる花木植栽の推進、ふじおか紅葉まつりライトアップ、コスモス畑など新しい取組に挑戦していきます。

【藤岡南地域】 わくわく事業活動事例紹介

団体名	西中山自治区住みよい地域創造活動協議会
事業名	西中山川環境浄化・景観緑化整備・マレットゴルフ場整備事業
会員数	24名
設立年月日	平成17年3月30日
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・河川浄化を水質調査で確認し、環境の良いまちづくりに努める。 ・大池散策路、ふれあい広場、マレットゴルフ場の整備、維持管理等を行い地域住民がふれあう機会と広場を提供する。
活動状況	活動内容、成果、活動の中で良かったこと、苦労したことなど

【活動内容】

1 西中山川流域の環境浄化

- (1) 週2回、西中山川へEM菌2次培養液200ミリℓを放流
- (2) 年2回、水質調査を実施
- (3) 環境改善の成果啓発
(ほたる観察会・川調べ・ホタル幼虫放流)

2 景観緑化整備

- (1) 西中山ふれあい広場の整備
- (2) 大池散策路・ふれあい広場の草刈・追肥・施設整備・点検

3 マレットゴルフ場整備

- (1) マレットゴルフ場のコース管理・保全



ホタル・カワニナ放流 (2年11月)

【活動の成果】

1 西中山川流域の環境浄化

- ・水質検査の結果は良好で、多数の小魚等の生息、夏のホタルの乱舞を確認し、河川の浄化が保たれている状態である。
- ・西中山川浄化の成果として、川調べ、EM菌配布等の活動を通じて区民への啓発が図られた。

2 景観緑化整備

- ・ふれあい広場散策路の全てに手摺が設置され安全が確保された。



西中山ふれあい広場
遊歩道手摺整備 (2年10月)

【今後の活動】

- 1 EM菌放流を中心とした河川浄化活動を継続し、ホタルが飛び交い、小魚、水鳥等が今以上にたくさん生息する美しい西中山川を目指して活動を続けていく。
- 2 西中山ふれあい広場散策路、大池周辺散策路の点検・管理を行い、安全で快適な住民の憩いの場所の提供に努める。
- 3 マレットゴルフ場を区民の交流と健康増進の機会として提供するため施設の再整備を行う。



大池から眺める猿投山

【団体からの一言】

地域の環境整備は、継続的なエネルギーの投資が必要です。このわくわく事業は自治区の援助と組織的な活動により恒久的な成果が得られています。しかし、今後避けて通れない高齢者の増加問題に加え、次の世代に残すための「ふる里づくり」等地域の課題が山積するなかで、区民全体が参加し、取り組むことで、この地区の将来を約束するものと信じています。

【松平地域】わくわく事業活動事例紹介

団体名	水土里の会
事業名	里山林再生整備事業
会員数	8名
設立年月日	平成29年4月1日
事業概要	愛知県が平成30年度に桂野町地内で整備した「あいち森と緑づくり事業」の事業地を継続的に維持管理するとともに、周辺の里山林や里道、遊歩道を整備して地域住民が里山に親しみ触れ合う機会と場所を提供し、里山（自然保護）の大切さやあるべき姿を示す里山整備を目指す。
活動状況	活動内容・成果、活動の中で良かったこと、苦労したことなど

【活動内容】

- ・間伐材や孟宗竹を利用し、椎茸原木、薪、工芸品等作り、活動資金を得る。
- ・事業地の伐採、間伐、里道の整備
- ・整備した場所へヤマザクラの植栽



整備前の里山の様子



整備後の里山の様子

【活動の中で良かったこと、苦労したこと】

里山整備の活動を通じて、事業地が明るくなり、地域の方からも喜ばれることに活動のやりがいがある。

一方で団体の高齢化も進み、新しい会員の獲得のために会の活動に共有できる人を確保することに苦労を感じる



間伐材を使った遊具
(令和2年度に作成)

【成果】

里山林保全活動の功労が認められ、令和元年7月に愛知県知事から感謝状が授与されました。

同月に豊田市長を訪問し、受賞報告を行いました。

また、毎年秋の里山を歩く会を実施し、地域住民を始め約80名が参加しました。



令和3年3月発行

地域振興部 地域支援課